

## アメリカにおけるソーシャルワーク教育・研究活動：コロナ禍がもたらした困難とその克服方法

菅野花恵

2020 年度以降、コロナ禍において、アメリカ社会は、共和党対民主党の政治的対立やヘイトクライムの人種差別の問題に直面し、ソーシャルワークの教育者・研究者間では、ダイバーシティ（多様性）に関する教育・研究・運動が重要事項となった。そのような社会的状況とコロナ禍が交差しながら、ソーシャルワークの大学教員・研究者が、教育・研究をしていく上での環境が突然に変化した。本発表では、アメリカのソーシャルワーク大学院（Master of Social Work (MSW) プログラム）の一教員・研究者のケースを中心に、コロナ禍において、ソーシャルワークの教育・研究活動をしていく上で、アメリカではどのような困難に直面し、どのようにそれを克服してきたのかについて述べる。

教育においては、日米のソーシャルワーク教育と MSW プログラムの特徴を述べながら、コロナ禍で変化した授業形式から生じた諸問題、教員・学生間のコミュニケーションの困難性、学生の精神的問題・生活課題について述べる。そしてそのような諸問題・困難を克服していくために、大学からどのようなサポートを受け、教員間でどのように解決していき、またコロナ禍だからこそ実現できた国際ソーシャルワーク教育の発展について言及する。

研究においては、コロナ禍で生じた研究活動の諸々の制限について、特に、実態調査・学会発表・研究助成金獲得の困難さを指摘しながら、アメリカのソーシャルワーク大学院の一教員・研究者が、諸々の制限下の中で、どのように研究をし、論文・本を執筆してきたのかについて、またどのように学生にも研究指導をしてきたのかを、日本の大学院生や教員・研究者へのアドバイスをも含めながら、述べていきたい。

日本で、アメリカのソーシャルワークの教員・研究者と同様の困難を抱えてきたと考えられる教育者・研究者と共に、アメリカの教育・研究活動との共通点・相違点についてディスカッションしながら、どのようにコロナ禍で生じる困難を克服しながら、教育・研究活動を活性化していったら良いかについて共に考えたい。